

中部東海ブロック

ブロック活動報告

REPORTER

伊藤雄大 中田結希 宮内山陽がいのスポーツ推進者協議会

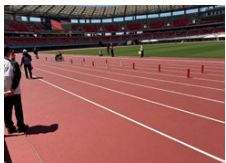
「名古屋市障がい者スポーツ大会陸上競技の部」



第23回名古屋市長杯がいの者スポーツ大会陸上競技の部が令和8年5月10日にパロマ瑞穂スタジアムで行われ

ました。昨年までは、パロマ瑞穂北陸上競技場にて行われていましたが、今年は第5回愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会のメイン会場と同じ会場に行われることになりました。

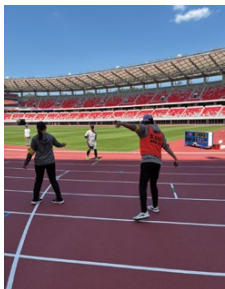
当日はボランティアリーダーとして大会運営に携わりました。スラロームや音源走、50m走、1500m走の選手のスタートとゴールの誘導を主に担当しました。単に業務をこなすだけでなく各持ち場にボランティアを配置し状況に応じた指示出しを行い、特に意識して行なったのは情報共有と声かけです。競技の進行状況や変更点を迅速に伝えることで混乱を防ぎ、疑問に丁寧に対応することで安



今秋のアジア・アジアパラ大会も開催されるパロマ瑞穂スタジアム

心して活動できる環境づくりに努めました。また障がいのある選手が安心して競技に集中できるよう、安全面への配慮も重要な業務であり移動時のサポートや分かりやすい案内を徹底し、事故やトラブルを未然に防ぐようにしました。そうすることで選手が全力で競技に臨む姿や、達成感にあふれた表情にふれ、スポーツが持つ力と意義をボランティアとして支える立場でありながら、近くで自身も多くの学びと感動を得ることができました。

今年は例年以上に盛り上がりが見られました。名古屋市長杯がいの者スポーツ推進者協議会、学生ボランティア、審判員、イベントスタッフを含め延べ180名以上の方にご協力いただき選手が集中して競技に臨めるように受付、選手の誘導、競技進行を実施し、他スタッフと連携しながら円滑な大会運営に一人一人が貢献されていました。今後、愛知・名古屋アジアパラ競技大会でより一層パラスポーツが盛り上がるように、パラスポーツの魅力発信に微力ながら関わらせていただきたいと思います。



多くのスタッフが奮闘を要した大会

中四国ブロック

ブロック活動報告

REPORTER

土居由紀 香川県パラスポーツ推進者協議会

インクルーシブスポーツを目指して

香川県パラスポーツ推進者協議会の会員には、スポーツ推進委員としての活動を経て、パラスポーツ指導員の資格を取得された方が多く在籍しています。今回は、高松市スポーツ推進委員連絡協議会に所属し、初級パラスポーツ指導員の資格を取得した会員より、取得の経緯やその後の活動についてご報告いたします。

以前より「障がい者との共生社会」の実現に向けたスポーツ普及に興味を持っていたことが、資格取得のきっかけとなりました。その後、高松市スポーツ推進委員連絡協議会内で共にパラスポーツ指導員資格を取得した仲間13名にまで増えています。現在は、各自のスキルを活かし、各地区スポーツ協会やスポーツ推進委員連絡協議会が主催する行事・体験会等を通じて、パラスポーツ(ボッチャ・卓球バレー等)やカローリングの普及活動を積極的に行なっています。

令和8年2月14日(日)・21日(日)には、かがわ総合リハビリテーションセンター主催の



みんなで楽しめるウィルチェアAJTA

教室にて、「ウィルチェアAJTA(アジアタ/車いす玉入れ)」と「室内モルック」の紹介を行いました。「ウィルチェアAJTA」は、3～4名の選手が合計50個(49個+アンカーボール)の玉をバスケットに入れるタイムを競う競技です。当日は、車いすの使用有無を問わず多くの方にご参加いただき、ルールを緩和してAJTAを楽しんでいただきました。モルックは、本来は木製のピン(スキットル)を倒して目標点数50点を競う競技です。今回は環境や参加者に配慮し、柔らかい樹脂素材の「室内用モルック」を使用し、目標点数30点にする工夫を凝らして実施しました。終了時には、参加者の方々からご好評をいただき、次回開催への大きな励みとなりました。スポーツへの関わり方には、「する」「みる」「ささえる」「あつまる」「つながる」という多様な形があります。私たちは正式ルールを踏まえつつ、今後は障がいのある無に関わらず誰もが楽しめる「インクルーシブスポーツ」の普及を目指し、パラスポーツ指導者、そしてスポーツ推進委員として、多くの仲間と共に力を合わせて活動をしていきたいと考えています。



体験型のアジアタ玉入れ

近畿ブロック

ブロック活動報告

REPORTER

秋川清芳 和歌山県障がい者スポーツ推進者協議会

和歌山県でも広がるボッチャ



障がいの種類や有無にかかわらず楽しめるボッチャ

東京パラリンピックの開催によりボッチャの認知度は急速に高まり、障がいの有無に関わらず多くの方が楽しんでます。和歌山県では、県障害者スポーツ協会による障害者スポーツ教室、指導者協議会主催のスポーツ・レクリエーション教室などでボッチャに取り組んできました。

手軽に取り組めることやミスがあればワンプレーで勝敗が逆転するゲーム性もあって、教室などは好評で、参加された方々のボッチャを楽しむ様子をいつも見ることができました。「もっと楽しみたい。もっと機会を増やしてほしい」との意見をいただいていたことが、コロナ禍や指導員の多忙さも相まって中々そうした機会を実現できずにいたところ、2022年の全国障害者スポーツ大

会(栃木大会)からの正式競技採用が転機となりました。大会に向けた強化練習を通じて、選手が着実に技術を高め、戦術理解を深めて成長していく様子、さらに大会で持てる力を存分に発揮し、生き生きとした表情で一喜一憂する様子を間近で見て、関わった指導員それぞれがボッチャへの想いを強めていきました。

大会に参加した選手の「次も金メダルを取りたい」「次は1勝したい。そして金メダルを取りたい」そのために「もっと練習したい!」との熱い希望を聞き、選手の情熱や全国大会参加で生まれた機運とつながりを消したくないと考え、現在月3回(平日夜2回、休日1回)の定期練習に取り組んでいます。全国大会に参加した選手と指導員が中心の小さなグループで、居住地が練習会場から遠方であることや仕事などでメンバー全員がそろう機会は少なく、短時間で終わることもありますが、「継続」することを第一に、それぞれ楽しみながら練習に取り組んでいます。

まだまだ試行錯誤の日々ですが、選手の笑顔と生き生きとしたプレーが見続けられるよう活動を続け、少しずつつながりを広めていきたいと思います。あなたもFacciamo BOCCIA(ボッチャ、やるかい)?



取り組みやすくゲーム性も高いのが人気

九州ブロック

ブロック活動報告

REPORTER

市来洋・奥松美恵子 宮崎県パラスポーツ推進者協議会

全国障害者スポーツ大会で変わる宮崎県のスポーツ

宮崎県パラスポーツ推進者協議会では、2027(令和9)年に開催される全国障害者スポーツ大会「日本のひなた宮崎障スポ」をひとつのきっかけとしながら、その先、地域に何を残すかを考え、取り組みを進めてきました。目指しているのは、特別な場をつくることだけではありません。これまで地域にあった大会や競技の中に、誰もが自然と一緒にプレーする関係が生まれていくことです。

その小さな変化が、ここ宮崎で少しずつ起き始めています。宮崎県陸上競技協会では、記録会の中でチャレンジアスリート記録会を同時開催し、今年で第19回を



宮崎のボーダーレスな取り組みが、全国ダウン症アスリート陸上競技記録会開催へとつながった

数えます。この経験をもとに、全国ダウン症アスリート陸上競技記録会の開催へと取り組みが広がっています。地域の選手たちと同じ競技場で、同じ時間に競技を行う。記録に挑む姿に自然と応援の声が上がり、観客だけでなく審判員や競技役員も、一人のアスリートとして競技を支える空気が

生まれていました。

また、2025年12月、都城地区で開催されたウィンターキャンプ(高校新人バレーボール大会)では、デフバレーボールチームが初めて参加しました。大会が終わる頃には、高校生たちが自然に手話で「ありがとう」と伝え合う姿が見られました。

私たちパラスポーツ指導者は、人と人、競技と競技をつなぐ役割も担っています。現場では、「どうすれば一緒にできるか」を考え続けることの大切さを改めて実感しています。全国障害者スポーツ大会は大きな節目です。しかし、本当に大切なのはその先だと考えています。

- ・障がいのある選手が地域の大会に参加していること。
- ・それを特別と思わない空気があること。
- ・選手たちが同じ会場で成長していくこと。

そんな風景が、宮崎の日常として残ることを目指しています。



高校生の大会出場にデフバレーボールチーム